

受験番号

2024年度

神戸国際中学校 A-I 選考

国語

(2024年1月13日実施、50分、100点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

□ 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(本文に一部表記を改めたところがあります。)

多くの栽培植物の種子は、発芽の三条件である適切な温度、水、空気(酸素)があれば、発芽する。しかし、自然の中を自分の力で生きる植物の種子はそんなに簡単に発芽しない。それぞれの植物種の種子は、発芽のタイミングを知る方策を身につけている。

① 乾燥した地域に生きる植物の種子は、適切な温度と水と空気があつても、発芽してはならない。発芽する際、もつとも気を付けねばならないのは、発芽後にも使える水があるかどうかである。(A)、発芽後に水が不足すれば、芽生えはたちまち※枯死こししてしまう。それゆえ、種子たちは、発芽するときに必要な水だけでなく、発芽した後根を張りめぐらすのに使える水が十分あるかを、発芽の際に見きわめなければならぬ。

種子たちは、どのようにして、「発芽したあと水がある」ことを知るのだろうか。「種子たちが発芽するとき、そんなことまで考えていないだろう」と思われるかも知れない。「種子がほんとうに考えているかどうか」は別にして、②「発芽したあと水がある」ことを、種子たちが知るためのしくみは存在する。

乾燥地帯に生きるいくつかの植物は、種皮の中に、発芽を※阻害そがいする物質を含んでいる。これらの物質は、水に溶ける性質を持っている。だから、多量の雨が降って、種子が水につかれば、阻害物質は水に溶けて流れ去る。それほど多量の水がまわりにあるときに限り、からだから阻

害物質がなくなり、この種子は発芽する。発芽を阻害する物質が発芽のタイミングをはかる役目をする、わかりやすいしくみである。

(B)、種皮が堅かったり厚かったりして、発芽に必要な空気(酸素)や水が種皮を※透過とうかしないために、発芽しない種子がある。酸素を透過しないオナモミの種子や、水を透過しないクローバーの種子が、その例である。

こんな種子は、堅くて厚い種皮が微生物によって分解されてやわらかくなると、発芽する。もし微生物が堅くて厚い種皮を分解するならば、生物がまわりに多くいることになる。微生物が多くいるのは、水分が十分にあり、※肥沃ひよくなa土壌であることを意味する。だから、種子にとって、発芽後の成長に都合がいい。種子が堅い種皮を持つことは、適切な場所で発芽する一つのしくみである。

堅い種皮を持つ種子は、土壌中の微生物などによって種皮が分解されてないと、発芽しない。(C)、同じ年に結実した種子でも、b散布された環境により、発芽する時期は大きく異なる。

③「同じ年に、同じ株、同じ花にできた種子であっても、発芽する時期が異なる」というのは、種族の存続に有利に働く。散布された環境によって発芽する時期が違えば、発芽は、何カ月、何ヶ年にもわたって、ぼつぼつおこる。

自然の中では、ひどい乾燥や低温などのために、発芽した植物がすべて枯死することもあるだろう。④そんなとき、まだ発芽していない種子があれば、その植物の種族を存続させることができる。長い間、存続してきた植物種が身につけている大切な性質だろう。

このように、多くの植物種は種皮によって発芽を調節している。種皮

が発芽を調節しているのなら、「種皮を取り去れば、早くいつせいに発芽させることができる」という発想が生まれる。実際に、種皮を剥がすと、ほとんどの植物種の種皮は、c ヨウイに発芽し成長をはじめ。

アサガオやホウレンソウの種子は、堅くて厚い種子を持っている。それゆえ、種子を蒔いても、なかなか発芽しない。発芽の時期もそろわず、バラバラと発芽する。これらの種子を早くいつせいに発芽させるために、私たちは、濃硫酸に、数十分間、つけることがある。

濃硫酸で堅くて厚い種皮を溶かしてしまうのだ。濃硫酸は、衣服につけば、布地をボロボロにしてしまうこわい薬品である。だが、堅くて厚い種皮は、そんな薬品に数十分間つけられて、やっとやわらかくなる。翌日、発芽がおこるような状態になる。

最近、ホウレンソウのような堅い種皮の種子に「⑤ネーキッド種子」と呼ばれるものが市販されている。「ネーキッド種子」とは、「種皮を取られて裸にされた種子」を意味する。種皮がないから、発芽が早く、いつせにおこる。それだけでなく、病原菌がd フチャクしている恐れがある種皮がないので、病気にもかかりにくい。

(田中修 『ふしぎの植物学』)

※枯死…草や木が枯れてしまうこと。

※阻害…じゃまをすること。さまたげること。

※透過…光線や液体などが物質の内部を通り抜けること。

※肥沃…農作物がよく育つぐらいに、土地が肥えていること。

問1 ll a s d のカタカナは漢字に直し、漢字はひらがなで読みを答えなさい。

問2 (A) (C) に入る言葉として適当なものを次のア～オから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア だが イ もし ウ それゆえ エ つまり

問3 — ①「乾燥した地域に生きる植物の種子は、適切な温度と水と空気があっても、発芽してはならない」とありますが、それはなぜですか。その理由がわかる部分を後に「くから。」が続くように、最初と最後の五字を本文中からそれぞれ抜き出しなさい。

問4 — ②『発芽したあと水がある』ことを、種子たちが知るためのしくみ」とありますが、それはどんなしくみですか。五十字以内で答えなさい。

問5 — ③「同じ年に、同じ株、同じ花にできた種子であっても、発芽する時期が異なる」のはなぜですか。適当な理由を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 同じ時期に発芽してしまわないことにより、栄養をためて早く発芽することができるため。

イ 同じ時期に発芽するのを避けることで、種族を長く続かせるのに有

利となるため。

ウ 同じ時期に発芽してしまわないことにより、種皮の分解にかかる時間をのばすため。

エ 同じ時期に発芽するのを避けることで、発芽後に効率よく根をのばせるようにするため。

問6 —④「そんなとき」が指している内容を、「〜とき。」に続くように、本文中から三十字以内で探し、最初と最後の五字を抜き出しなさい。

問7 —⑤「ネーキッド種子」とはどのような種子のことですか。三十字以内で答えなさい。

問8 本文の内容として適当なものを次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 乾燥した地域に生きる植物の種子は、適切な温度と空気（酸素）と水さえあれば、周りがどんな状況でも発芽することができる。

イ 種皮が堅かったり厚かったりすると発芽しない種子があるが、水が通り抜けない種子の具体例として、オナモミが挙げられている。

ウ 種子は、同じ年、同じ株、同じ花でできたものであっても、散布された環境が異なると長くて数日程度発芽の時期がずれることがある。

エ 多くの植物の種子は、種皮によって発芽を調節しており、場合によってはいつせいに発芽させるために、濃硫酸を使うことがある。

□ 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やカッコなどの記号も字数として数えます。（本文に一部表記を改めたところがあります。）

高校生の新は、高速バスの事故で視力を失った兄の朔に誘われて、※ブラインドマラソンの※伴走者をつとめることになったが、その練習中に、朔が転んでけがを負ってしまう。このことから、新は、同じブラインドマラソンの伴走者である境野に、自分の代わりに伴走者を探してほしいと頼んだ。新が帰宅した後、境野から十二月に開催されるブラインドマラソン大会のお知らせメールが届く。

大会の※概要と参加を誘うひと言がかいてあるだけの（A）とした内容だった。

「どう思う？」

読み終わったタイミングで朔に問われて、新は（B）とした。

「どうって、十キロならもう余裕だよ」

「うん。そこはオレも心配してない。完走はできる。でもどうせやるなら入賞を目指したい」

真つすぐに言い切る朔を見つめて、新はふっと笑った。おかしいか嬉しいというのではない。もちろんバカにしているわけでも呆れているわけでもない。ただ笑ってしまった。

① やつぱり朔は朔だ。

「いいんじゃないの。可能性はあるよ」

新が言うと、朔は※安堵あんどしたように表情を緩めた。

「でも、それならやっぱり伴走者は代えたほうがいい」

朔が（C）と動き、それから頭をかいた。

「なんか、うーん、そんなこと言い出すような気がしてた」

驚いて新が視線をあげると、朔は唇をこすった。

「今日転んだこと、気にしてるんだろ」

新はすつと視線を床に落とした。

「おまえってわかりやすいっていうか、マジで単純だよな」

「人をバカみたいに言うなよ」

（D）と新がつぶやくと、朔は目元にかかった髪に息を吹きかけた。

「オレさ、ブラインドマラソンを始めたとき、オレと新はチームなんだって思った。ほら、伴走者ってガイドともいうけど、パートナーともいうだろ、そっちの感覚。でも実際走っていると、やっぱりオレは新に支えられているだけで、パートナーっていう関係にはなれてないんだってずつと思ってた」

「ダメなの？」

「ダメじゃない。ガイドっていう考え方が間違ってるとも思ってる」

ただ、オレはそれじゃあおもしろくないなって」

「……………」

「今日さ、転ぶ直前、あれってあきらかにオレのペースじゃなかっただろ。焦ったし、無理だっと思ってたし、まあ実際ついていけないで転んだんだけど。でも、怖いかさそういうんじゃないかって。なんていうか、※

高揚こうようしたっていうか、一瞬だけど、知らない世界に足突っ込んだっていうか」

新は②かぶりを振った。

「ランナーのペースに合わせるのが伴走者の仕事で、その逆はない」

「それはわかっている。新の言っていることは正しいよ。伴走者はランナーを導いていくガイドだ」

③そう、伴走者はガイドだ――。

新は膝ひざの上でぎゅつとこぶしを握った。ランナーの目になり、的確な指示を出して安全に確実にゴールまで導いていく。伴走者が走るのランナーのためだ。自分のためじゃない。

オレには、伴走者として朔の隣で走る覚悟も自信も、資格もない――。

「あのさ、転んだのは今日が初めてだからな。毎日走っているのに、一度もなかったんだぞ。新がいつも神経張って伴走してくれていることは、オレが一番わかっているつもりだけど」

「でもケガさせた」

朔は大きく息をつく、「ちょっと待ってる」と部屋を出ていき、筒状になっている画用紙を持って戻ってきた。

「見てみな」

戸とまど惑いながら新はそれを受け取ると、ゴムを外して画用紙を開いた。

画面に大きく、笑顔の男の子の顔が書いてある。※世辞せじにもうまいとはいえない。けれどよく見ると、絵に沿って④小さな盛り上がった点がついていることに気がついた。

「その絵、点を指でなぞるとオレにもちゃんと見える」

「これって」

「あのバスに乗ってた女の子がくれた」

「……………」

朔と事故のことについて話すのは初めてだった。

「その女の子、バスの中でも絵を描いていたんだろ。で、クレヨン
を落としちゃったんだ。水色のクレヨン。それがオレのそばに転がって
きて、手を伸ばしたんだけど拾えなくて。で、シートベルトを外して通
路に出たとき、事故が起きた。あとのことは覚えてないけど、たぶん吹
っ飛んで、頭を打ったんだと思う」

あの事故で大きなケガや亡くなった人は、シートベルトをしていなか
ったと聞いた覚えがある。けれど朔は⑤シートベルトをしていなかった
理由を言わなかったし、両親も朔を問うようなことはしなかった。

「もちろんオレがこうなったのはその子のせいなんかじゃない。オレが
勝手に拾おうとしただけで、頼まれたわけでもない。でも、めぐちゃん、
あ、その女の子の名前だけ。めぐちゃんは事故のショックでしゃべれ
なくなっちゃって。四カ月たって声がでるようになって。それでお母さ
んにオレのことを話したんだって」

朔は淡々と話し続けた。

「めぐちゃんのお母さんたち、いろいろ調べたんだろ。オレのこと
知って、去年の夏頃から、手紙くれたらしくて。要はオレに会いたい
ってことだったんだけどさ。母さんは反対したらしいけど、父さんがオ
レのいるとこ教えたんだって。で、そのとき※オレが厄介になってた寺
に来てくれて、めぐちゃんから、それもらった。めぐちゃん、お母さんと
一緒に点字で書いてくれたんだよ。でもオレさ、そのとき点字なんてま
ったくわからなくて」

そう言ってふっと笑った。

「⑥すげー恥ずかしかつたよ。めぐちゃんは一年生になったばかりで
さ。そんな小さい子が一生懸命書いてオレんとこ来てくれたのに、オレ
はなにやってんだろなって。きつと、来るまで怖かったと思うんだ。
お母さんにしてもめぐちゃんをオレに会わせること、悩んだと思う。う
ん、絶対悩んで、迷ったと思う。でも来てくれて」

朔は膝に肘を当て、手のひらを組んだ。

「あの頃、オレぜんぜんダメで、※盲学校もうがっこうに行ったのだから、ただ逃げ
ただけだと思う。みつともないだろ」

ううん、と新は唇を嚙かんでかぶりを振った。

(いろいろみく 『朔と新』)

※ブラインドマラソン：視覚に障がいのある人が走る。伴走者と共
に五十センチのひもを持ちながら走る。

※伴走者：伴走とは走者のそばについて一緒に走る。特にブライ
ンドマラソンにあたっては、伴走者は障がい者ランナーと一緒に走
り、視覚障がい者の目となり方向を伝えたり、障がい物を避けたり
する役割がある。

※概要：大体的内容。

※安堵：安心すること。

※高揚：精神や気分が高まること。

※世辞：相手に取り入ろうとして言う、心にもない言葉のこと。

※オレが厄介になつてた寺：朔が盲学校の寮に入つていたころ、実家は戻らず寺で過ごしていた。

※盲学校：視覚に障がいのある人に対して、必要な知識や技術を教える学校。

問1 (A) (D) に入る言葉として適当なものを次のア～オから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア びくり イ あっさり ウ こくり エ どきり
オ ぼそり

問2 —①「やっぱり朔は朔だ」とありますが、新は朔をどのような性格だと考えていますか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自信ありげに他人を見くだす性格。
イ 何事にも向上心をもっている性格。
ウ 心配性ですぐにあきらめてしまう性格。
エ 意見を聞かないひとりよがりな性格。

問3 —②「かぶりを振った」とありますが、この場合の「かぶり」とは何のことですか。漢字一字で答えなさい。

問4 —③「そう、伴走者はガイドだ——」とありますが、新は伴走者の役割をどのような役割と考えていますか。四十五字以内で答えなさい。

問5 —④「小さな盛り上がった点」とは何のことですか。本文中から適当な言葉を抜き出しなさい。

問6 —⑤「シートベルトをしていなかった」とありますが、朔はなぜシートベルトを外したのですか。三十五字以内で答えなさい。

問7 —⑥「すげー恥ずかしかったよ」とありますが、朔はどんなことに対して恥ずかしいと感じていますか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の状況と寺の場所を家族以外に知られてしまったこと。
イ 自身が大怪我を負った理由を他の人に知られてしまったこと。
ウ めぐちゃんより年上の自分が現実から逃げてしまったこと。
エ 点字が読めず、めぐちゃんに返事を書くことができなかったこと。

問8 本文の内容として適当でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 朔は自分が転んだことを新のせいだと思っていないが、新は伴走者としての自覚が足りなかった自分のせいだと思っている。
イ めぐちゃんが朔に会うことに対して朔の母親は反対していたが、めぐちゃんの手紙によって、最終的に朔のいる寺の住所を教えた。

ウ 朔はブラインドマラソンで新とパートナーの関係になりたいと考えているが、まだ新に支えてもらっているだけだと感じている。

エ 朔はブラインドマラソンをただ完走するだけでなく賞もとりたいと言ったのに対して、新は伴走者を代えたほうがいいと申し出た。

三 次の①～⑤の文の中の主語を、次のア～ウから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① ア 淡路島の イ 有名な ウ 特産品は 玉ねぎだ。
- ② ア これが イ 私の ウ 大切な 万年筆だ。
- ③ ア 学校の イ 体育館には ウ 誰も い なかった。
- ④ ア あの人こそ イ 今年の ウ 生徒会長に ふ さわしい。
- ⑤ ア 彼でさえ イ 一 か月前から ウ 準備を し ていた。

四 次の①～⑤の―部が、適当な言い方であれば○を、「らぬき言葉」であれば正しい形に直して答えなさい。

- ① 漢字がかなり読めるようになった。
- ② この服はまだ着れそうだ。
- ③ もつとはやく走れる。
- ④ 重い球を投げれる。
- ⑤ お菓子をちようど分けれない。